あっちこっちに はやくも春模様？

てんオー新聞

'14. 2. No.206
発行責任 [illegible]
0883-88-5295

― 高野谷面を望む ―

今年の冬は、雪が少ない。十二月二十六日に降ってから、チラチラする日は、何日もあったが、その後には、二、三センチ位が一回だけ。その分、朝夕の冷えはあるので、日中少しずつ溶けた雪が氷って、道路ではアイスバーン。ちょっとスピードを出せば横滑りする始末。だけど、早くから屋根の雪はおちてしまったり、大寒というのに雨だったりだ。

だから、寒い、寒いと言っているけど、一月も末になると陽差しが変わってきはじめる。数日前の寒さを忘れてしまって、目にする物、感じる物が違っている自分がいる。ノドもとすぎればなんとやらで、勝手なもんだ。けど、やっぱり春を感じはじめると、様々なことが好くなっていく気がするのが不思議だ。

自然界も、早い春を感じているのか、陽当りのよい所では福寿草が咲いているのをみつけた。やっぱり春一番でこの花を見る様になると、気持は外に向かう気がする。まだジョウビタキが北へ向っていないのに、雪溶け水の音の合い間にミソサザイの澄んだ鳴き声がする。まだまだ連続しては鳴かないが、ちょっと聞いただけで、こっちの歩みが軽くなってくる。散歩しても、風が気持よくなってきた。道路を雪溶け水が流れ、きらきら輝く。氷の下を流れる水が、まるで、オタマジャクシの様に次々とやってくる。ちょっとした水遊びをしても楽しくて時間のたつのを忘れる。

セイドマニコウタンから 鬼峰

柳瀬・神谷川

上を見れば、空の色が暖かくみえてくる。スズメの声だって弾んで聞こえてくる。山々も心なしか色が変わってきているのかなあ。ユズリハの葉は、下向きから横に広がりはじめてる。……と、散歩していても、春かなぁ、春だよなあと感じることが多くなってきました。そういえば、ハエの羽音も聞こえる。小さい昆虫を目にする。どこか、ちょっと早いよなあ。変んだけど寒いよりはいいかなあ。冬眠する時間が短いと、寝不足にならないだろうか。ゆっくり本を読む時間が少なくなって、外に出て行きたくなってくる。読みたい本が多くあるのにちょっと困る。本当に、人は勝手なもんだ。どうして、自然にあわせて、楽しんでいければ楽しいのに出来ないんだろうな。

私だけかな…